

あって、与党も野党も必ずしも積極的ではありませんでした。国会で議論を尽くし、1年以上の審議を経て、なんとか成立に持ち込みました。私は、介護保険制度の必要性を信じて疑いませんでした。今日の超高齢化時代には不可欠の制度です。長寿化は年々進んでいますので、介護保険制度が安定的に運営できるように、適切な利用・運用に全ての人が心して欲しいと思います。

首相官邸での勤務

市長 江利川さんは二度総理官邸で勤務していますね。一度目は中曽根内閣のときでした。

江利川 入省の動機からすると、総理官邸勤務は青天の霹靂(へきれき)でしたが、いい経験させていただけました。課長になりたての38歳のときの人事異動で、中曽根内閣の国鉄民営化や売上税の導入などの大きな課題がある中で仕事をしました。売上税は中曽根内閣では実現できませんでした。二度目はそれから約10年後で、橋本総理、小淵総理、森総理の時代です。中央省庁再編が大きな課題になっていて、2001年1月、森内閣

の時に実施されました。私は厚生労働省に戻らず、再編の目玉である新設の内閣府の大臣官房長に発令されました。

渡しがあります。次の総理や官房長官と初閣議の段取り、総理談話、内閣の基本方針を決めるなど、緊張した打ち合わせが続きます。小淵総理が急遽入院され、最後は病院で亡くなられましたが、あときの緊張感は特別なものがありました。

江利川 必ずしも日々ということではありませんが、施政方針演説や重要行事などは十分打ち合わせをします。当時官邸は非常に少ない組織体制でしたが、政策の中枢にいるため、緊張感の強い毎日でした。3年間務めた二度目の



内閣総理大臣親任式(平成10年7月)時の江利川さん(一番右)

首席内閣参事官のときは土日の半分は出勤していましたが、新年を官邸で迎えたこともありま。夏休みなどの休暇を取ったのはたった1日だけでした。また、首席内閣参事官であった私の大きな役割の一つに、総理が代わる際の次の内閣への橋

市長 2回目の官邸勤務では総理大臣と間近に接することで、ダイナミックな政治の変化を体感されたんですね。

これからの行田に期待すること

市長 霞が関の話はまだまだお伺いしたいのですが、江利川さんの故郷である行田市に対して、何か期待することはありますか。

江利川 行田に来ると、同級生やご縁のある多くの人が、行田は活気を取り戻しつつあると言っています。非常に素晴らしいことだと思えます。市の基本構想を読みました。過去を振り返り歴史を大事にするともに、産業の活性化をはじめ未来への展望も書かれています。仕事

を持ち行田に住む、職住接近で家族との時間も取れる、そうした市民生活を考えた構想は素晴らしい、ぜひそうなることを思います。

と思っています。

若い世代が将来の夢を持って育っていく、日本に、世界に羽ばたいていく。現にそういう人がいますので、そういう経験談も行田の方々と共有していただきたいですね。その一方で、多様な人が夢を持って集まってくる、そういう行田でもあって欲しいです。

市長 ぜひ、そうなるように頑張りたいと思います。私は『新しい行田へ、皆さんと一緒に』と申し上げておりますが、今まで築き上げてきたものを壊すのではなく、歴史と伝統ある行田の過去からの繋がりの中で、現在をしっかりと見据えた上で、未来をみんなで一緒に創っていくという思いで申し上げます。



市制施行75周年記念文化の日・記念式典での江利川さん

民間の活動もいろいろ展開されていて活発です。それぞれが個別に頑張って活動するだけでなく、それに加えて、相互に力を合わせて何かをやることも、また非常に大事だと思います。その両方を大事にしてい、行田市の活性化に繋げてもらえればと思います。

民の皆さんと一緒に歩を進めていくことだと思っています。

そして、行田には素晴らしい観光資源もあります。鴻巣、羽生、あるいは熊谷などと連携することでまた違った観光の提案もできると思っています。そうした中で県北全体が活性化していく、その旗振り役を行田市ができれば素晴らしいです。

江利川さんをはじめ、広く活躍され、素晴らしい功績を残されている行田出身の方がまだまだいらっしゃると思います。そうした方からもご助言をいただきながら、行田が活気を取り戻す、そのような市政運営をしていきたいと思っています。

江利川 素晴らしいですね。ぜひ頑張っていたきたいと思います。

最後に、若い人たちに一言申し上げたいですか。私は、世の中を良くしたいという思いで仕事をしてきました。大事にしたのは、義(正義)なこと(と怒(思いやり)です。やろうとしている政策が正義にかなっているのか、国民のことを十分考えているのか。「誠は天の道なり」という言葉があります。誠実に生きることが人生を豊かにします。若い人には、何事にも誠実に取り組み、前へと進んでもらいたいと思います。

市長 素晴らしい言葉をありがとうございます。本日はどうもありがとうございました。

～江利川さんとの対談を終えて～

霞が関での思い出話の中で、江利川さんが自分自身に言い聞かせたという『後輩の存在意義は先輩を乗り越えることにある』という言葉が大変印象的でした。行田市にもそういう気概を持った職員が増えてほしいと思っています。

また、二度も事務次官を経験された方は、後にも先にも江利川さん一人です。江利川さんのように、志を高く持ち、社会のために尽力し功績を残される方が、これからは行田市から輩出されていくことを願いながら、あらためて教育に力を入れていきたいと感じました。

行田市長 行田 邦子